

## 指定管理者評価シート

### 一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市黒松児童館
2	指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3	指定期間	平成25年4月1日から平成30年3月31日まで
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》 25,833人 (前年度比 108.9%)          平成28年度 23,712人          平成27年度 22,873人          平成26年度 21,441人</p> <p>《事業》          児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業</p>
5	収支の状況	<p>《費用》 ( )は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定管理者に支払った費用 27,140千円 ( 25,420千円)</li> <li>・ その他市が負担した費用 0千円 ( 0千円)</li> </ul> <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用料収入 0千円 ( 0千円)</li> <li>・ その他収入 0千円 ( 0千円)</li> </ul>
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館協力者会議、児童クラブ保護者懇談会を実施。

### 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	児童館の設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、管理運営団体が作成した「オリエンテーションブック」を用いて職員への共通理解を図るとともに、館内掲示、ホームページ等で利用者にも周知している。また、地域特性やニーズを生かした各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	S
II 施設の運営管理体制	日常的・定期的な保守点検や清掃により、建物、設備、外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取組みが実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	S
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な保守点検や清掃により、建物、設備、外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取組みが実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	S
IV サービスの質の向上	名札の着用、館内掲示による職員紹介、児童館だよりの発行やホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境作りに取り組んでいる。また、各種研修への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等を通して利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。特に、ホームページの毎日の更新や対象者別の3種類の児童館だよりの発行は、利用促進につながっている。	S
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、遊びの内容、限られた空間の使い方、道具等についての見直しを行い、日常の遊びを充実させる取り組みを行っている。様々な企画行事を提供しているほか、地下鉄を利用した遠足や近隣の公園での植樹祭への参加など、新たな活動にも取り組んでいる。館外にも活動の場を広げることにより、社会体験や自然体験の機会を設け、子どもたちの育ちを支えている。	S

### 三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

### 四 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>平成29年度は、「異年齢・世代間の交流の推進」、「地域諸団体等との連携・協力による事業展開」、「中高生の自主活動の支援」を重点目標として、児童館事業運営に取り組みました。</p> <p>黒松市民センターと共催の「黒松市民センター・黒松児童館まつり」では、児童館での遊びや活動の発表を通じた児童健全育成の機会として、また、黒松連合町内会、市民センター利用団体、黒松子育て支援クラブ、黒松寿会（老人会）、黒松婦人の会、美助っ人（八乙女中学校ボランティア）、ふたばクルーズ（東北福祉大学ボランティア）の各団体及び「黒松ファミリー」を中心とした各ジュニアリーダーサークルなど、それぞれの年代の方々が、共同で活動し交流する「絆づくり」の行事としての意義を、改めて実感することができました。</p> <p>チャレンジクラブ（ダンス）の黒松連合町内会「黒松夏祭り」への参加は、子どもたちの活動に発表の場が与えられ、ステージでの表現の楽しさと達成感を味わう機会となり、地域の方々とのつながりを身近に感じられる体験となりました。</p> <p>子育て支援クラブとの連携・協力により本年度2回実施した「黒松半日村」では、支援クラブ会員と児童が、料理の楽しさを共有し交流する場を提供することができました。</p> <p>放課後子ども教室「わいわいパーク」との共催で実施した「大学生とおもいっきりあそぼう！」では、ゲーム・運動遊びを通して、ふたばクルーズ会員の大学生と児童との交流が深められました。</p> <p>また、八乙女中学校美術部による「おまつり看板作り」、夏休みと冬休みに実施した「ジュニアリーダーと遊ぼう」など、地域の中高生のための様々な活動の場の提供と支援・協力に努めるとともに、児童館の利用の促進を図るための取り組みを行いました。</p> <p>以上のことから、今年度も目標をほぼ達成することができたものと総括しています。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>乳幼児親子の利用が多いという地域特性を踏まえ、自由参加のサロンや発達に合わせた年齢別の乳幼児行事、幼児クラブを実施しているほか、行事終了後の「カフェ」は保護者同士の交流の場やリフレッシュの場となっている。</p> <p>職員と中学生が簡単なゲームを楽しむ企画のほか、中高生のニーズを取り入れた備品の購入や毎月の企画行事の実施等が、仲間と楽しく過ごせる場がほしいというニーズに合致し、児童館が中高生の居場所となり利用につながっている。また、中学生が乳幼児親子と触れ合う保育実習の機会を提供しているほか、夕方には中学生と小学生が触れ合う時間も設定し、世代間交流にも取り組んでおり、評価できる。</p> <p>さらに、近隣の高校文化祭に児童館ブースを設けて遊びを提供したり、近隣児童館と連携して館外で出前児童館を開催したりするなど、積極的に幅広い活動に取り組んでいるところも評価できる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進室